



五  
新  
五

特別  
~13  
4219  
5



新行 母美之天

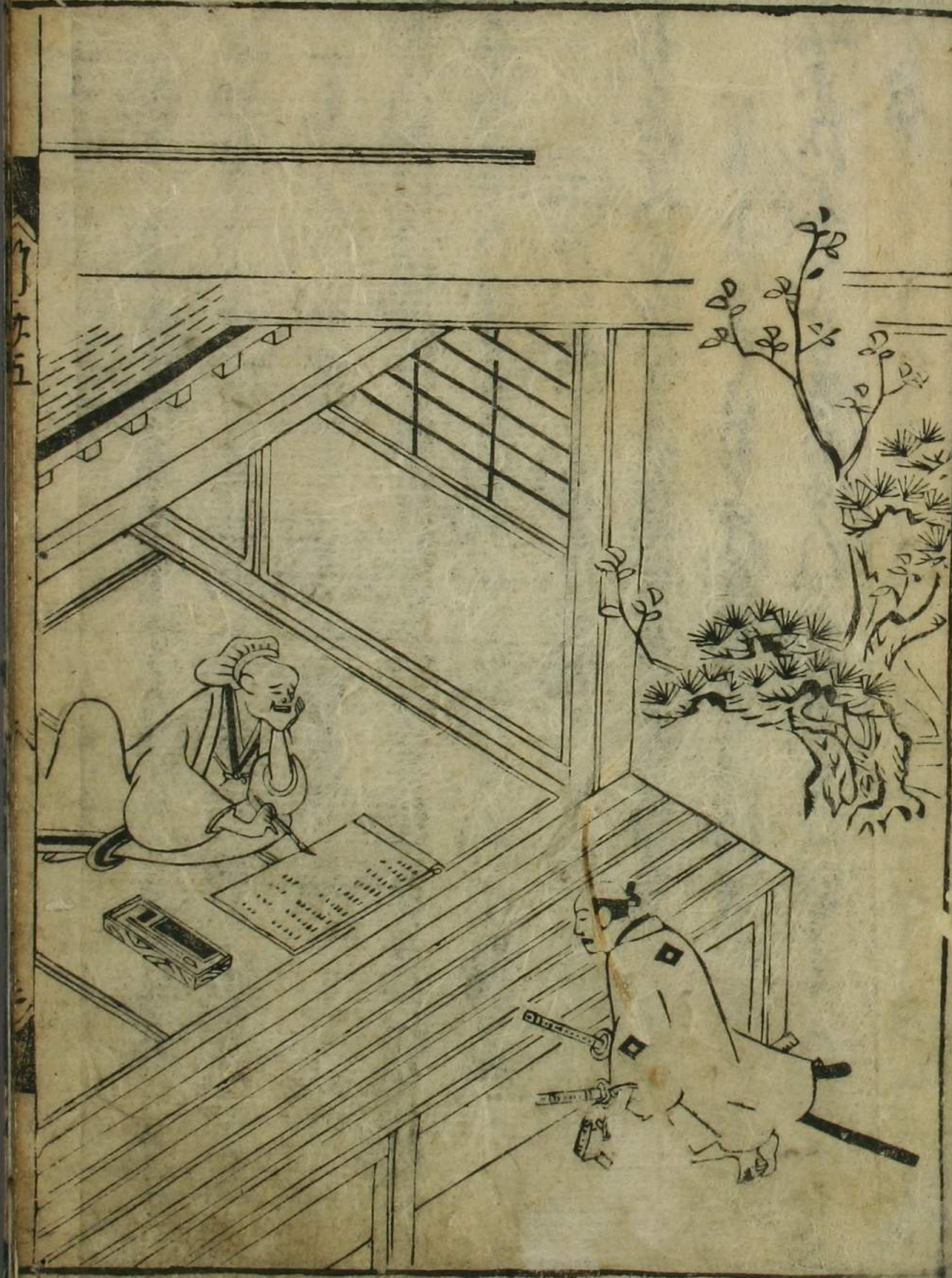
一 遺書 好の母 月日 未詳

高木家藏

好文堂

好美もて人よひあらはるなり あり何ぞや  
 かのよきて云々方医乃おのよありおのたよと  
 流へらりしんふと 兼しも手書と好でりし信らねが  
 短書未詳ありて。たじししとふかれありまよはるが  
 あり信らねが。兼しも手書と好でりし信らねが  
 かん人なりしんふと 兼しも手書と好でりし信らねが  
 とありしんふと 兼しも手書と好でりし信らねが  
 とありしんふと 兼しも手書と好でりし信らねが











くらげのしるしをさすは、おぼつかたしむるは、  
 なるびんをひききりしは、おぼつかたしむるは、  
 臨年しるしをひききりしは、おぼつかたしむるは、  
 おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 くもやろ余と準可ひひききりしは、おぼつかたしむるは、  
 おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 つくはとてこころをひききりしは、おぼつかたしむるは、  
 のおれを食て一物又どい飯九きづく、おぼつかたしむるは、  
 かりくは、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 したくは、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 うらたは、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、

御心して、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 若狭氏、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 子ん下女の、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 女房、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 何と、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 くも、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、

⑨ やまのこゝろを、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、

けしき、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 かしら、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、  
 ろ、おぼつかたしむるは、おぼつかたしむるは、



四つとトよみありと。この世は世にありと。いふこと。道徳の  
 月丸丸の研の海に。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 一の目まは法。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 けりやと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 せんのぞと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 ちよ千丸丸。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 是か下。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 慮り。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 幾日。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 たら。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。  
 一のぞ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。





ありつゝあり 雲のこころ 霧のこころ 霧のこころ  
 凡れつゝあり 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ  
 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ

又 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ

霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ  
 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ  
 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ

霧のこころ 霧のこころ 霧のこころ





一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

帝畿三條通油小路東へ入

貞享 第四歳

書林

西村市郎右衛門

<sup>卯</sup>芳春吉辰日

坂上 庄兵衛

高木家藏

彫  
花文堂

アサキ

トウニ山

